

図 11 . B 領域での計算波高最大値分布
 上段左：山中・菊地モデル、上段右：
 谷岡モデル、下段：気象研モデル

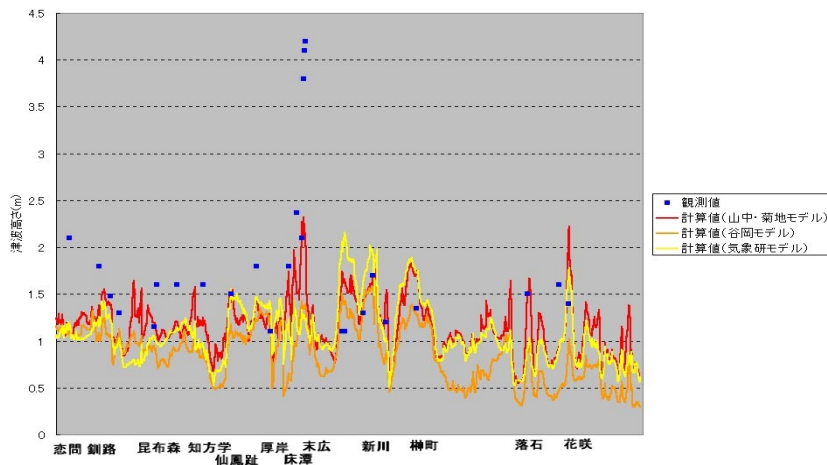


図 12 . 観測波高値と計算波高最大値の海岸線に沿った分布の比較
 海岸線は図 11 の範囲で厚岸湖、島、根室湾を除いた範囲。

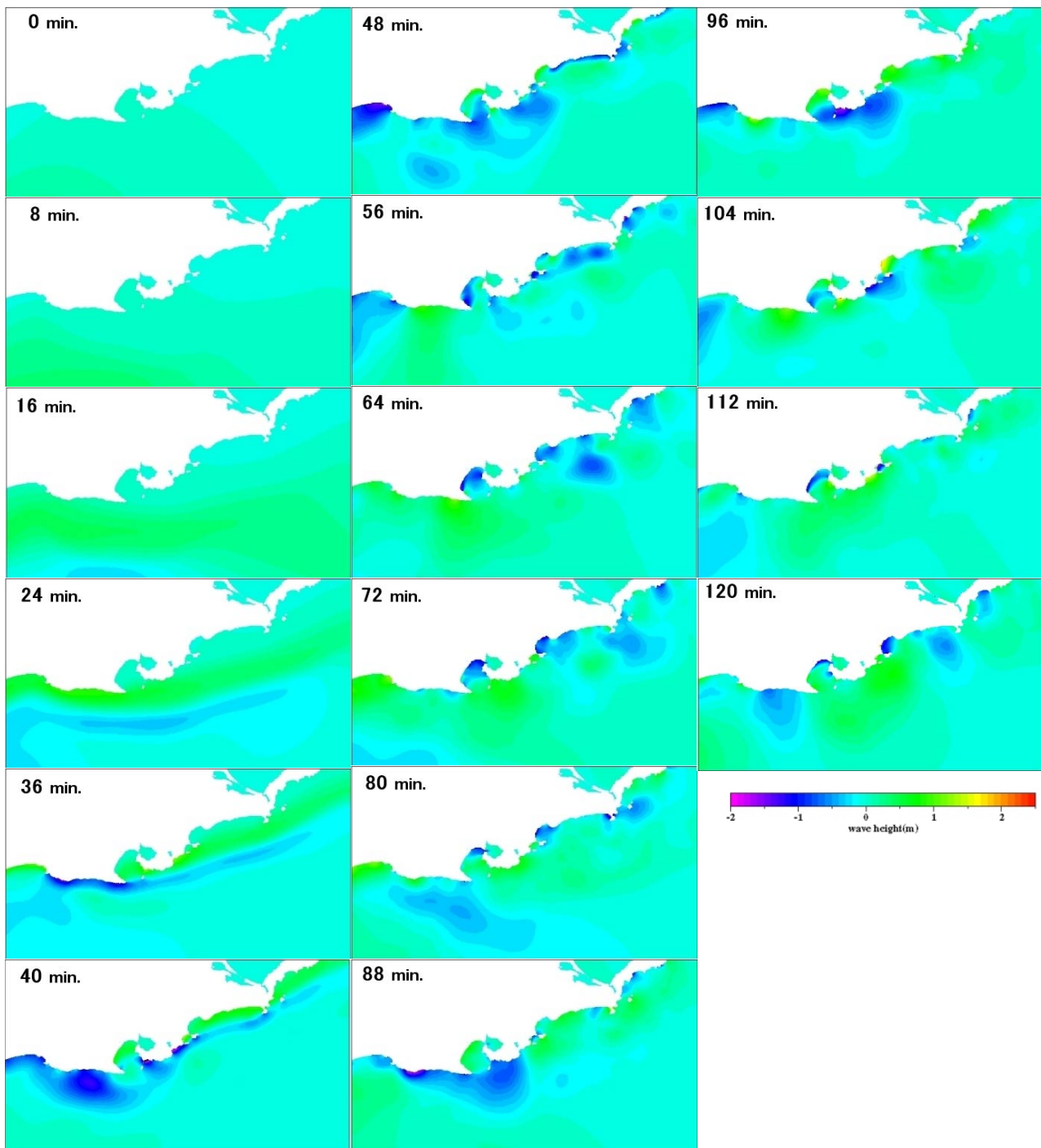


図 13 . 山中・菊地モデルを使った計算結果による波高分布の時間変化
 このシリーズでは末広付近の最大波高出現は 104 分頃。

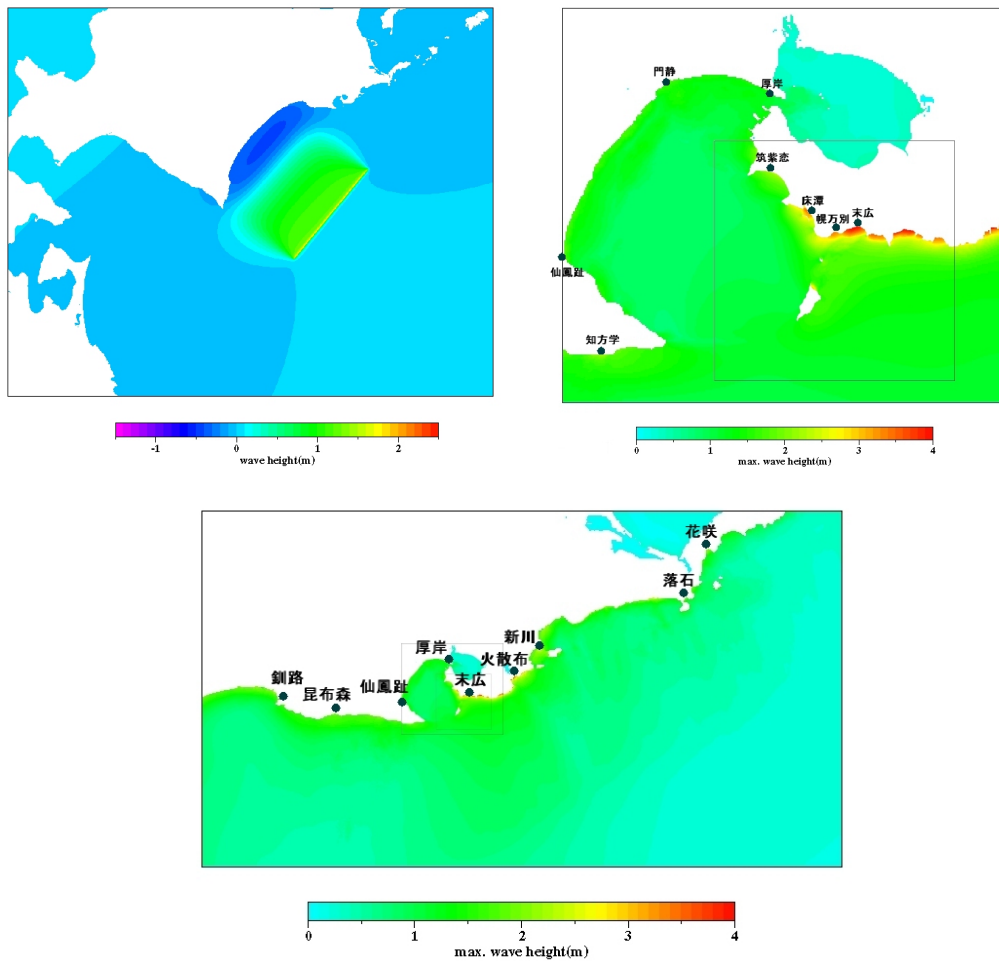


図 14 . 笠原モデルから計算した 1952 年の津波

上段左：初期波形、上段右：C 領域の計算波高最大値分布、下段：B 領域の計算波高最大値分布。海岸線等の詳細な地形は当時を再現したものではなく、現在の地形を使用。特に 6.5m の最大遡上高を記録した仙鳳趾では、その後の漁港整備に伴う斜面開削・埋め立て等により当時の地形が変更されたことが分かっている。

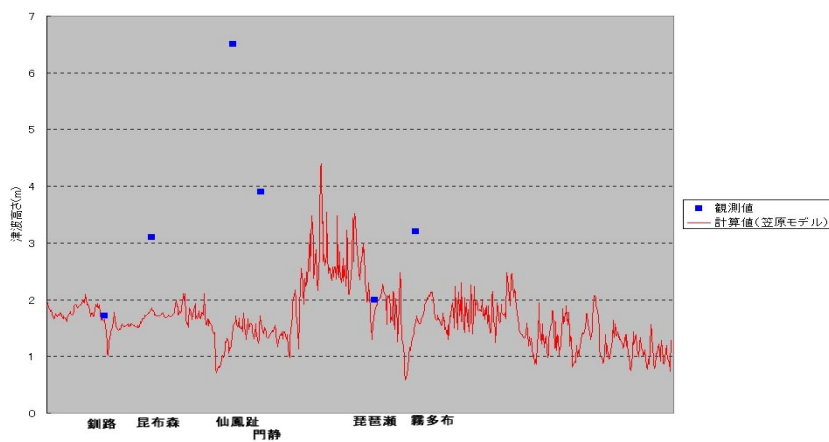


図 15 . B 領域での観測波高値と計算波高最大値の海岸線に沿った分布の比較
海岸線は図 14 下段図の範囲で厚岸湖、島、根室湾を除いた範囲。